

第6章 3. i. ドイツ・イタリア・北ヨーロッパ(2)

ドイツには10世紀の[1 **オットー1世**]の戴冠以来、[2 **神聖ローマ**]皇帝が存在したが、歴代の皇帝が[3 **イタリア**]政策に没頭したため、国内政治は安定しなかった。こうしたなかで13世紀半ばに[4 **大空位**]時代(1256~73)をむかえた。こののちも皇帝の力は弱く、1356年には皇帝カール4世が[5 **金印勅書**]で選帝侯とよばれる大諸侯に皇帝を選ぶ認め皇帝の力はより制約された。こうしてドイツではイギリス、フランス、スペインなど中央集権化した国々とは異なり[6 **分裂**]状態が続くことになる。なお、皇帝の位は15世紀以降[7 **オーストリア**]の君主[8 **ハプスブルク**]家が事実上世襲するようになっていく

⑦[9 **スイス**]地方…[10 **オーストリア**]のハプスブルク家領→農民による独立運動つづく
(ウィリアム=テルの伝説)
→中世末 事実上の独立達成→1648年の[11 **ウェストファリア**]条約で承認される

⑧イタリア=分裂状態がつづく
・都市国家の繁栄([12 **フィレンツェ**]・ヴェネツィア・[13 **ミラノ**]など)の繁栄
メディチ家 ヴェニスコンティ家
→[14 **教皇**]党(ゲルフ)と[15 **皇帝**]党(ギベリン)の抗争続く

イタリアでは[16 **東方**]貿易の発展を背景に、ヴェネツィア・[17 **フィレンツェ**]・ミラノなど有力な都市国家や多くの国家が存在したが、全イタリアを統轄する王が存在せず、[18 **ローマ教皇**]がローマにいたこともあって、各国の介入もつづいた。また国内で[19 **教皇**]党と[20 **皇帝**]党の対立抗争もつづくなど分裂状態がつづく。こうしたなかで、[21 **イタリア=ルネサンス**]が開くのである。

⑩ 北ヨーロッパ…[22 **ノルウェー**] [23 **スウェーデン**] [24 **デンマーク**] の三国の成立
↓
14世紀末[25 **デンマーク**]女王マルグレーテのもと三国で[26 **カルマル**]同盟を結成
アジア系のフィン人の地(フィンランド)→13世紀以来[27 **スウェーデン**]に統合される

4. 西ヨーロッパの中世文化 a. 中世文化の基調

中世西ヨーロッパでは、[28 **教会**]の権威によって人々の生活も文化も支配されていた。この時期、知識人や科学者は教会のことばである[29 **ラテン語**]語を用いる教会や[30 **修道院**]の僧侶であり、学問の内容も[31 **神学**]が中心で「[32 **哲学**]は神学の婢(はしため)」と呼ばれ他の学問は一段低いものとされた。美術や建築も[33 **教会**]とその装飾のために発展していた。自由さや合理性の面など多くの面で[34 **ギリシア=ローマ**]の古代から大きく後退していた。

b. 中世のルネサンス

①中世の神学=[35 **スコラ**]学…36 **信仰を論理的に体系化する** ことで神と教会の権威確立をめざす
ローマ末期の教父哲学([37 **アウグスティヌス**]ら)が基礎

8世紀[38 **アルフィン**] (カロリング=ルネサンス期)にはじまる。
↓ [39 **カール大帝**]のもとでのラテン語による文学復興期

・[40 **実在**]論(アンセルムスら)と[41 **唯名**]論(アベラールら)の論争

実在論…神や普遍の観念が個々の事物とは別に[42 **実在**]するとの主張

唯名論…神や普遍の観念は[43 **抽象物**]にすぎず、存在するのは[44 **名目**]だけという主張

12世紀…[45 **イスラーム**]世界やビザンツからギリシア哲学(とくに[46 **アリストテレス**]哲学)を取り入れる
経験を重視

↓
[47 **トマス=アキナス**]「神学大全」によって大成、教皇権の理論的支柱となる

↓
[48 **ウィリアム=オッカム**]らの唯名論が優勢に→近代合理主義思想の基礎に

②中世前期、合理主義思想の弱体化=自然科学([49 **実験** や **観察**])の衰退
→中世末、[50 **ロジャー=ベーコン**] (英「中世最大の科学者」)=実験の重視

③12世紀末ごろ、大学の成立
[51 **教会**]の付属学校を母体に、教授や[52 **学生**]の組合として成立、
教皇や皇帝の特許状をえたギルドの性格を持つ
大学の形態…神学・[53 **哲学**]・[54 **法学**]・[55 **医学**]の学部からなる。

[56 **トレド**]大学(中部スペイン)…11~13世紀[57 **イスラーム**]の学問をラテン語に翻訳
[58 **サレルノ**]大学(南イタリア)医学(←イスラームから学ぶ)、
[59 **ボローニャ**]大学(北イタリア)法学
パリ(ソルボンヌ)大学(仏)・[60 **オックスフォード**]大学(英)神学、[61 **ケンブリッジ**]大(英)法学

c. 美術と文学

①中世の美術=[62 **教会**]建築とその壁画が中心
ア)前期…ビザンツ様式の模倣…大きなドーム(円屋根)と[63 **モザイク**]壁画に特徴
代表…サン=マルコ寺院(ヴェネツィア) (・[64 **ハギア=ソフィア**]寺院(コンスタンティノープル))

イ)中期…[65 **ロマネスク**]様式…アルプス[66 **以南**]が中心 [67 **重厚**]さ
半円状アーチを使用し、小さな窓、厚い[68 **石壁**]と小さな窓、内部の壁画が特徴
代表…[69 **ピサ**]の大聖堂など

ウ)後期…[70 **ゴシック**]様式…アルプス[71 **以北**]が中心←教会の権威と都市の財力が背景
高い[72 **尖塔**]アーチ、細ながい窓、内部の[73 **ステンドグラス**]、柱や外壁の彫刻が特徴
代表…[74 **ノートルダム**]大聖堂、[75 **ケルン**]大聖堂、アミアン大聖堂、シャルトル大聖堂

④文学…[76 **口語**] (俗語)で表現した[77 **騎士道**]物語が中心(学問は[78 **ラテン**]語)
→各地を遍歴する[79 **吟遊詩人**]が伝える→のちに文字に記される
理想的な中世の人間像としての騎士を描く

80 **武勇と主君への忠誠、神への信仰、女性や弱者への保護**などを重視
代表=(英)[81 **アーサー**]物語、(独)[82 **ニーベルンゲン**]の歌、(仏)[83 **ローラン**]の歌